



PTAを対象とした講演会

Q 親の学習の普及と推進について

A 家庭教育の意義と重要性を啓発

大曾根英明 議員

質問一 親の学習への取り組みについて。

二 「ゆとり教育」「学校週5日制」の問題点について。

三 「道徳教育」「歴史教育」「郷土教育」の考え方について。

四 今後の親に対する教育の在り方について。

答弁一（教育委員長） PTAの家庭教育学級担当者を対象としたワークショップや教員、保護者、市職員を対象とした講演会を開催。また、入学説明会、学級懇談会等の機会を利用して教育の出発点である家庭における教育の意義と重要性について啓発を行った。

二 ゆとり教育では、学力格差が生じ、また競争意識が低下した。学校週5日制では、小学生の地域での活動時間が増えたが、中学

校では部活動の休日の練習や練習試合の増加などゆとりがなくなってきたという一面もある。

三 道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行う。歴史教育や郷土教育では、郷土を題材とした学習の中で、身近な郷土の自然や文化、歴史に触れさせ、郷土を愛する児童の育成に努める。

四 親の学習の意義を啓発し、積極的な実施を奨励する。

◎**その他の質問** インフルエンザ対策について

Q

農業大学の移転は中止を

A 要請する考えはない

松村 和子 議員

質問一 県農業大学校については移転中止を県に要請し、地域農業と産業の充実発展の場として拡充すること。

二 圏央鶴ヶ島インター周辺地域の開発面積、必要な予算の状況について。

三 市街化区域の基盤整備こそ優

先すべきではないか。調整地域の圏央鶴ヶ島インター周辺地域の開発はやめていただきたい。

答弁一（市長） 農業大学校は県の機関であり、施設の再配置や機能の在り方については県により決められるものである。県では老朽化した農業大学校の移転について



広大な農園のある農業大学校

検討しているものと理解しており、その中止を要請する考えはない。

二 水土里の交流圏構想は、地域資源を生かしながら10年先、20年先を見据えたプロジェクトであり、圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地域を開発するものではない。

三 市街化区域、調整区域の特徴に応じた、コンパクトなヒューマンスケールのまちを築いていきたいと考える。

◎**その他の質問**

一 子どもたちに豊かな学校給食を

二 子ども医療費の窓口払いの廃止と18歳までの医療費完全無料化を